

報道関係者各位

2013 年 5 月 21 日

【5 月 21 日は「ニキビの日」】
ニキビは、皮膚科で治す疾患です。
～ニキビの改善は QOL の向上への大きな第一歩～



塩野義製薬株式会社（本社：大阪府中央区、代表取締役社長：手代木 功、以下「塩野義製薬」）は、2010 年より 5 月 21 日をニキビの日に制定し、さまざまな啓発活動を実施してまいりました。今年度も、ニキビに悩む患者さまの為に活動してまいります。

ニキビは、多くの日本人が経験する「尋常性ざ瘡」と呼ばれる皮膚の慢性疾患で、10～20 歳代に多くみられます。また、主に顔面に現れ、瘢痕が残ることがあるなど、患者さまの QOL（Quality of Life、生活の質）に影響を及ぼすこともあります。しかしながら、その対処法はスキンケア、一般用医薬品による治療など、患者さまご自身の判断にゆだねられていることが多く、皮膚科で治療すべき疾患としての認知が患者さまに十分浸透しているとは言えない状況です。

2011 年にガルデルマ株式会社と塩野義製薬が実施・発表した中高生対象のインターネット調査では、面皰主体あるいは軽症のニキビのあっても半数近くがニキビに悩んでいるという結果がでました。このことから、ニキビは重症度に関わらず思春期の子供の心理面にマイナスの影響を及ぼすおそれがあると言えます。（中高生と母親 約 2000 名の意識調査、グラフ①）

2011 年に Bio PsychoSocial Medicine に発表された、アメリカの皮膚科医等の調査によると、ニキビがある十代の若者のうち 64%が「ニキビのせいで恥ずかしい思いをしたことがある」と回答し、55%が「ニキビができることが思春期のうちで厄介な出来ごとの一つ」と回答するなど、青春時代におけるニキビが精神的にも影響を及ぼしていることが分かります。（Bio PsychoSocial Medicine, 2011、調査 2）

これらの調査からも分かりますように、ニキビは患者さまの QOL に影響を及ぼすおそれがあることから、両社は、皮膚科医によるニキビ治療を受けることで QOL 向上につながる可能性があることを発信し、より患者さまが皮膚科を受診しやすい環境づくりを目指してまいります。

【中高生と母親 約 2000 名の意識調査】

調査概要

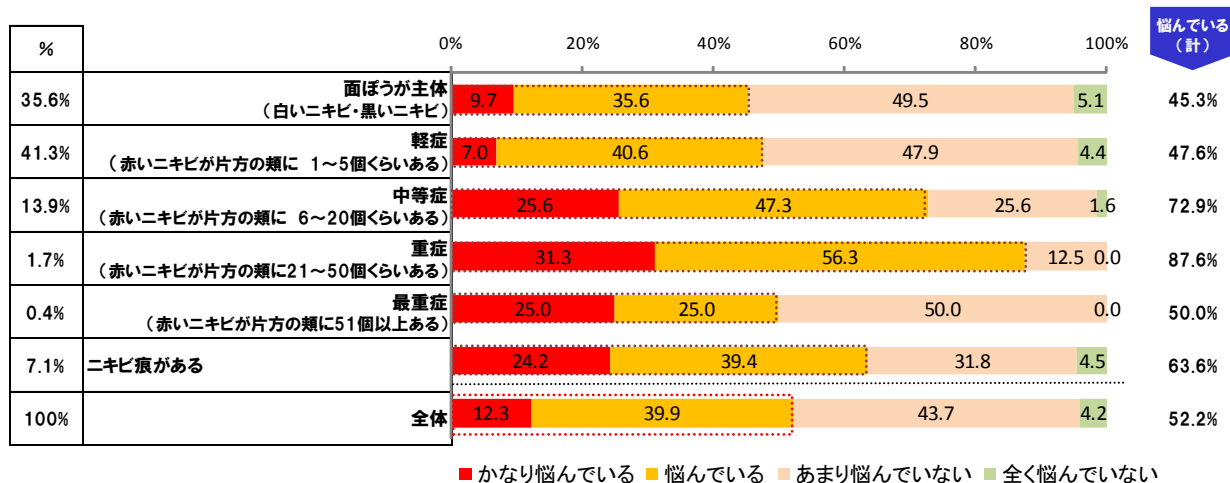
調査目的： こども（中高生）のニキビに対する悩みの深さと、母親の認識とのギャップを明らかにする
調査時期： 2011 年 8 月 12 日～8 月 26 日
調査対象： 子ども：顔にニキビのある中学生・高校生 930 人
母親：顔にニキビのある中学生・高校生の子どもを持つ母親 1,000 人
調査エリア： 全国
調査方法： インターネット調査
※今回調査を実施した対象は、血縁/同居の関係を持たない中高生と母親であり、中高生一般の意識と 中高生の子どもを持つ母親一般の意識を比較した結果です。

調査結果（抜粋）

グラフ①

【子ども】Q. あなたは、ニキビについてどのくらい悩んでいますか。

Q. あなたの今のニキビの状態に近いものを下記の中からひとつだけ選んでください。



回答対象者：子ども全回答者 N=930

【Bio PsychoSocial Medicine, 2011 調査】

※ Bio PsychoSocial Medicine, 2011 (Ritvo et al.: Psychosocial judgements and perceptions of adolescents with acnevulgaris: A blinded, controlled comparison of adult and peer evaluations. BioPsychoSocial Medicine 2011 5:11.)

調査方法：ニキビ肌の若者はニキビのない若者に比べてよりネガティブな印象を受けるという仮説のもと、回答者にデジタル処理された写真を提示し、ニキビについては一切触れず、二つのグループについてどう捉えたかを尋ねました。

調査 1：ティーンエイジャーの写真とデジタル処理にてニキビを追加したティーンエイジャーの写真についての印象

回答者：大人と十代の若者 1,002 人

調査結果：写真についての印象で、若者も大人も最初に気づいたことは彼らの肌でした（それぞれ 65%、75%）。ニキビのある若者に対する印象として、恥ずかしがり（39%、43%）、根暗な（31%、21%）、ストレスがある（24%、20%）、寂しい（23%、22%）、退屈な（15%、6%）、だらしない（13%、7%）、不健康な（12%、8%）、内向的な（9%、23%）、反抗的な（7%、5%）などが挙げられています。

調査 2：自身のニキビの経験について

回答者：大人と十代の若者 1,006 人

ニキビのある十代の若者のうち、64%がニキビのせいで恥ずかしい思いをしたことがあると回答し、55%がニキビができることが思春期のうちで最も厄介な出来事の一つのと思っていると回答しました。また 71%がニキビのせいで自信喪失やシャイになった、43%が恋人を見つけることが難しい、24%が友達ができにくい、21%が学校に行きにくい、7%が仕事を見つけることが難しいと回答しました。

【ニキビについて】

ニキビは、目に見えない毛穴のつまりに始まり、中にたまった皮脂により、アクネ菌が増えて炎症が起こる、慢性の皮膚疾患です。原因となる毛穴の詰まりを治療しないと、いつまでも繰り返す可能性がある上に、主に顔面に現れ、痕（あと）が残ることもあるなど、患者さまの QOL に影響を及ぼす可能性があるにもかかわらず、その対処はスキンケア、一般用医薬品による治療など、患者さまご自身の判断に委ねられることが多く、皮膚科で治療すべき疾患としての認知が、患者さまに十分に浸透しているとはいえない状況です

こうした背景を踏まえ、ニキビに罹患した患者さまに正しい情報を伝え、自己対処で済まらず、痕（あと）が残らないように早期に皮膚科による治療を受けていただくための環境づくりに努めたいと考えております。

【ニキビの日、5 月 21 日について】

ニキビは長い間「青春のシンボル」として捉えられ、皮膚の慢性疾患としての認識が低いものでした。しかし、ニキビは顔にできることが多く、患者さまの QOL に影響を与えることもあり、「ニキビは皮膚科で治療すべき疾患であること」を認知いただくため、2010 年より 5 月 21 日を「ニキビの日」としました。「5（いつも）2（にきびは）1（ひふかへ）」＝ “いつもニキビは皮膚科へ” の語呂あわせです（英語では ACNE DAY）。

【お問合せ先】

塩野義製薬株式会社 広報部

大阪 TEL : 06-6209-7885 FAX : 06-6229-9596

東京 TEL : 03-3406-8164 FAX : 03-3406-8099